

Meiji Seika ファルマ株式会社

報道関係各位

2025 年 5 月 21 日

ペニシリン原薬の安定供給体制構築に向けた Sandoz 社との提携に関するお知らせ

Meiji Seika ファルマ株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：小林大吉郎、以下 Meiji Seika ファルマ）は、Sandoz 社とペニシリン系抗菌薬の原薬中間体に関する設備投資および技術提携に関する契約を締結したのでお知らせします。

本契約に基づき、Sandoz 社はペニシリン系抗菌薬の原薬中間体であるアンピシリン水和物の製造設備を新設します。Meiji Seika ファルマは Sandoz 社の製造設備新設費用の一部を負担し、新設された設備で製造された原薬中間体を購入します。また、Meiji Seika ファルマは Sandoz 社の原薬中間体の製造方法を獲得し、国内で生産体制を整備します。

抗菌性物質製剤は、感染症の治療において重要な役割を果たしており、供給が途絶してしまうと国民の生存に直接的かつ重大な影響が生じます。しかしながら、抗菌性物質製剤の中でも注射剤の大半を占めるβラクタム系抗菌薬は、その原材料をほぼ 100%海外に依存している状況にあり、経済安全保障上の観点からも国内での製造及び備蓄体制を一体的に整備する必要があります。

Meiji Seika ファルマは特定重要物資であるペニシリン系抗菌薬 2 剤について、岐阜工場を活用し、ペニシリン系抗菌薬の原材料（母核）である 6-アミノペニシラン酸の国内生産に向けた体制構築を進めるとともに、6-アミノペニシラン酸以降の工程についても他社と協業し海外からの供給途絶時においても医療現場において必要な量を切れ目なく安定供給できる国内生産体制整備を行っています。Meiji Seika ファルマは、医療上の重要性が高い抗菌性物質製剤の安定供給を実現し、医療現場に貢献してまいります。

以上